

王将フードサービス (コード 9936・大証1部〔100株〕)

業績推移(連結)

(予想数値は会社発表分。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
09.3: 第2Q	26,863	+8.5	3,152	+14.2	81.8	17.0	20.8	11.7
10.3: 第2Q	32,839	+22.2	5,525	+75.2	133.4	25.0	18.7	16.8
09.3	54,986	+10.5	6,190	+17.9	147.3	40.0	27.2	11.3
10.3(予)	62,740	+14.1	8,836	+42.7	223.7	45.0	20.1	14.1

ギョウザを中核とする大衆中華料理店チェーン

特色...「ギョウザ」をメニューの中核に据えた大衆中華料理店チェーンで、幅広い顧客層を獲得できる“中華”業態、高いリピート率と多様な立地で出店可能な“日常食”業態であることが強み。09年9月末現在の店舗数は542店(直営、FC合計。中国大連6店を含む)で、このうち約60%が関西地区で占められている一方、関東地区や東海地区への出店も拡大している。

“個店重視”戦略にメディア効果加わり大幅増収増益に

4~9月の既存店売上高は19.4%増...今期の第2四半期(4月1日~9月30日)は、売上高が前年同期比22.2%増となり、増収効果などによって新規出店に伴う人件費増などを吸収し、営業利益(54億3,800万円)は同77.1%増、経常利益についても同75.2%増となった。店舗への権限委譲、“店格”を上げるための教育研修、“売れ筋メニュー”キャンペーン(半月ごとに一品ずつ実施)による商品価値向上、改装による新たな需要の掘り起こしなどといった“個店重視”の経営戦略の効果に加え、これらの取り組みが相次いでテレビ、新聞、雑誌などのメディアで取り上げられることによって、特に関東地区を主体に新規顧客やリピーターが増加。また、新規出店並みの投資による積極的な既存店改装を実施し、直営店ベースの既存店売上高は同19.4%増、既存店客数も同19.7%増。特に09年8月には直営店売上が日商ベースで過去最高を記録するなど、外食業界全体が苦戦する中で好調に推移した。なお、今期の第2四半期における新規出店は国内18店(うち直営11店、FC7店)、海外1店(中国大連)で、退店数は4店(直営2店、FC2店)。

既存店の好調が続き通期も過去最高業績へ

前期に続き過去最高業績へ...10年3月期の通期は、売上高が7期連続増、経常利益は9期連続増の見込みで、前期に続いて過去最高業績を更新しそう。“個店重視”にこだわった数々の施策が店舗スタッフの意識向上につながり、アイドルタイムの短縮化や個店のパワーアップ、さらには業績拡大へと効果を上げている。通期の新規出店は国内35店(うち直営24店、FC11店)、海外1店(中国大連)、退店5店を計画しており、中国大連を含めた10年3月期末の店舗数は558店(09年3月期末比31店の純増)の見通し。年間配当は45円を予定している。

09年11月の既存店売上高は19.5%増...会社側では今期の既存店売上高(直営店ベース)を前期比10.2%増と想定しているが、下期に入ってから月次の既存店売上高(直営店ベース)は、10月が25.2%増、11月も同19.5%増と、引き続き高い伸びで推移している。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。